教育問答（一）

主幹　倉橋惣三

幼稚園の必要

客　幼稚園は必要だといふ説もあり、必要でないといふ説もあり、時とすると、有害だといふ樣なことを聞くこともあります。どんなものでせうね。

主　一寸伺ひますが、あなたはお子さんが、おありですか。

客　ありますよ。丁度、今年四歳です。だがなぜそんなことをお尋ねになります。

主　丁度四歳におなりですつて。それはお話に大層都合がいゝ。いゝえ何ね、子どものことを知らない方は、教育のお話がしにくいものでしてね　お丈夫ですかね。

客　はい有り難う。お蔭でまあ普通の方ですが、でも時々病氣をして困ります。此頃も腹を毀して居るんです。何しろ、喧しくいつても間食が多いものですからね。

主　ここの子どもも同じですよ。しかし、間食なんか、嚴重になさつたら、いゝじやありませんか。

客　こころがあなた、始終家にばかり居るんでせう。また遊び友達はなし、家のものも、そう、しよつちう相手ばかりもして居られず、ついね。

主　ひとりでお遊びになりませんか。

客　それは無理ですよ。庭も餘り廣くありませんしね。都會としては、まあ地面のある方ですが、祖父が盆栽が好きで、秘藏の鉢ものが澤山置いてあつたりして。

主　子どもの遊び部屋は。

客　いやさ、それが可笑しいんですよ。實はね、子どもが生れると直ぐ、或る人に相談して、――その人は女學校

で家事科の先生をして居らつしやる方ですがね、家内の學校友達で、その道の專門の人だといふので、其の意見に從つて、兒童室を拵へたんですよ。光線を充分採るために、他の室と少し離して、壁の色なんかも西洋の建築雜誌からとつたりして、

主　それは理想的ですね。

客　いゝえ、ところがです。極く赤ン坊の間は、そこで暮しましたがね、少し大きくなると、奴さん、その中にぢつとして居ませんよ。始終、われ〳〵の部屋の方へ來つきりなんです。

主　足がありますからね。

客　ハヽヽヽ、そうなんですよ。八疊の理想的兒童室が、今では毎日空き家なんです。

主　お座敷きの方では。

客　子どもといふものは、よく散らかすものですね。なに私共は若いものですし、どうせ平氣なんですが、祖母が、きれいずきでしてね、人一倍。子どもの後から後から片づけるんですが、なか〳〵おつ附きませんや。孫のことゝいふと目もない癖に、散らかされるだけは、たまらないんだと見えます。それに、そろ〳〵ものを散かさない躾もして置かなければならないといふ調子でせう。

主　お庭では御秘藏の盆栽、お座敷きでは、潔癖と整頓教育じや、お子さんも、足がのばせませんね。

客　全くです。そうしちや。鼻をならすんでせう。ウエーファーだつて、あんなに、たてつゞけに食べては、腹にたまりまさあ。

主　實際、家にばかり居ると、そうなり易いもんです。

客　おや。だから幼稚園が必要だと、言ふ譯ですか。

主　よく、そういふ方がありますよ。

客　あなたは、

主　まあ、そんなところにも都合がいゝでせう。併し、幼稚園の必要を、間食防禦策で片づけて仕舞ふのは、少々淺薄すぎますね。

客　では、何か、もつと深酷な理由があるのですか。

主　深酷も可笑しいですがね、もう少し積極的な。

客　そうでせうね。まさか、間食防禦だけではね。

主　お子さんは、何をして遊んでいらつしやいます。

客　そうですね。何こいつて、きまりもありませんがね。繪なんか好きで、よく描いて居るようですよ。

主　美術家の天才がおありなんでせう。

客　ごうして。それだこいひのですがね。隨分變なものばかり描いて居るんですよ。私達の子ごもの時の方が、もつこ、まこまつたものを描いたこ思ふんですがね。

主　あなたは、よつぽごおやりですか。

客　いゝえ、いゝえ。今ぢや、まるつきし駄目なんですがね。子ごもの時は、よく、あんなものが描けたと思ふんです。此の間も、古い用箪笥の引出しから、私の子どもの時の繪が出ましてね。母がたんねんなものですから。

主　お立派なものでしたか。

客　ごうせ、子ごも繪ですがね。それでも、お父さんのは繪になつて居る。坊やのは、めちやくちやだ、なんて、母が子どもに見せたりして居ました。

主　へえ。

客　一つは、松の日の出に鶴。それから、もう一つは、猫に鼠に、犬に獵人の一筆描き。そいつがなか〳〵巧者に繪らしくなつて居るんです。

主　結構ですね。お子さんは、それを見て、何こ言つておゐでゝした。

客　だまつて居ましたよ。何か言ひかけたようでしたがね。家内が、坊やには、こても、こんなうまい繪は描けないでせう。いくら言つても、お手本を見て描かないんですものこ、言ひましたので、叱られたこでも思つたのでせう。だまつて仕舞ひましたよ。

主　ごんな、お手本をお上げなんです。

客　私は、よく知りませんがね。なんでも、いつか、出入りの經師屋が、坊ちやんにこいつて、五六枚描いて呉れたこか言つてました。

主　松の日の出に鶴ですか。

客　そうじやありますまい。父の時から出入りの、一寸、きような老人なんですがね。一枚はたしか、略描きの七福神でした。

主　これは驚きましたね。

客　え。

主　それは、あんまり、おかわいそうですよ。

客　だれが。

主　お子さんがです。

客　なに、家内だつて、そればつかし描かせるんではありますまいがね。しかし、何か手本がなくちやあいけないでせう。

主　手本なんか、いりませんよ。

客　畫に。

主　畫に、……何でお描きです。

客　クレイオンで。

主　それは結構です。

客　ところが、それで落書きをして困るんです。

主　どこへ。

客　昨日は勝手の唐紙に。

主　はゝゝゝゝ。達筆で。

客　それは、まあいゝんですがね。其の前には珍らしく、児童室にはいつて、おとなしくして居ると思つたら、折角ピンクに塗つてやつて置いた壁一面に、青のクレイオンを横なぜに塗つて仕舞つたものです。

主　痛快でしたね。海のおつもりなんでせう、

客　そうですつて。いやなかなか思ひ切つて大きく描いて居ましたよ。

主　そうでせう。

客　私はね。いつもの小さい落書きと違つて、これは、なかなか面白いと思ひましたがね。母だの家内だのには、大叱られに叱られて居ましたよ。自分の部屋だつて、こんなことをしてはいけませんてね。

主　泣きましたらう。

客　それでも泣きませんでしたがね。また、こんないたづらをすると、いけないから、クレイオンを取り上げると言はれたら、わあ〳〵泣き出しました。

主　それはお可愛相に。

客　それから四五日して、もう、よからうと思つてクレイオンを出してやつたら、直ぐ勝手の唐紙なんです。始めは小さなのを隅の方へ描いたんでせうが、ついうかか〳〵

こ描いて仕舞つたのでせう。おかしな人間の顔を十ばかり並べて描いて居ました。

主　クレイオンをお上げなさつた時、何枚紙をお上げになりました。

客　その時は、私も傍に居ましたが、生憎畫用紙がなかつたので、紙は今度買つて上げますよ。今日は、クレイオンだけ歸して上げませうと、家内が言つて居ましたから、紙はやらなかつたのでせう。

主　あなたは、お子さんの昨日の落書きを無理とお思ひですか。

客　さあ、多少無理もないとも思うんです。何しろ、久し振りで、大好きなクレイオンが手に歸つたのですからね。

主　私も、そう思ひます。

客　しかし、勝手なんかで、かくれて描いたりするのは、いけませんね。

主　かくれなければ、どこで描きます。

客　……。

主　子ども部屋のは、お消しになりましたか

客　いゝえ、まだ。

主　今度、いつか、お邪魔して拜見させて頂き度い位ですね。

客　どうぞ。なあに、つまらないものですがね。青を一面に塗つたゞけで、海の氣分が出てるところは妙ですよ。

主　波だけですか。

客　右手の方に、白で、鳥の樣なものが描いてあります。そばで見ると、一寸何だか分りませんが、少し離れて見ると、たしかに、波の上の鷗に見えるなんかも。子どもの癖に面白いものですね。

主　それだけですか。

客　その鷗を、もう一羽描こうとして居る時、めつかつたのです。

主　その頃、どこか海岸へでもお連れでしたか。

客　はあ、鎌倉へ連れて行きました。

主　その時の記憶を描いたのでせう。

客　そうかも知れません。よく、見たものを描きますからね。いや、どうして、めちやくちやの樣な中に、なかな

か。そう見えるものを描くんですよ。我子ながら感心させられることもあるんです。

主　海の大きい印象は、畫用紙より、壁の方が出ませうね。

客　なるほど。

主　蓬筆に、クレイオンを塗るのは愉快ですからね。

客　幼稚園でもクレノオンをお使ひですか。

主　はあ。

客　落書きはしませんか。

主　あんまり。

客　壁か何かへ大きな印象も描きたいこともあるでせうね。

主　壁に黒板をはめて置きます。

客　へえ。

主　そこへ、色々のチョークを澤山出して置きます。

客　へえ。

主　今度、いつか、幼稚園に見にいらつしやいませんか。壁黒板に、隨分思ひ切つた傑作が始終出來ます。

客　畫用紙も、お使ひですか。

主　はあ。

客　手本は。

主　與へません。

客　何を描きます。

主　いろ〳〵のものを描きますよ。一枚々々自分の畫を描きますよ。

客　それでいゝのですか。

主　幼稚園の子どもに畫を描かせるのは、繪の稽古をさせるんではなく、心にあるものを、存分に表はさせるんですから。

客　なるほど。

主　お宅でも、經師屋さんのお手本は、およしなさいよ。

客　そうですかね。しかし、手本だけやめればいゝのですか。

主　それからさきは、一寸お話が面倒です。

客　何がです。

主　どうして。子どもに、ほんとうに自分の繪を描させるかゝ。

客　そうでせう。

主　幼稚園の先生は、その秘訣を知つて居るんです、まあ、一度、實際を御覽下さいませんか。

客　宅では、手本の通り描かせて、よく似て居ないこと言つては、描き直ほさせたりして居ますが、それは、いけないのでせうか。

主　松の日の出に鶴を描かせるには、そうしなければなりませんね。

客　こいつは、恐れ入りました。

主　冗談は別ですがね。子ごもが自分で描き度いこと思ふものをほんこうに、自分の書こして描かせるだけのことでも、やさしい樣で、どこの家でもきつと出來るこいふものではありませんね。

客　實際、そう伺ふこ、ほんこにそうです。

主　それは繪だけのお話ですがね。子ごもの生活全體に、同じ問題がありますね。

客　分つたこ申していゝか、どうか知りませんが、お言葉だけの意味は分りました。

主　いゝ保姆の居る幼稚園は、そういふ處に、子ごもの心を活かし育てゝ行きますね。

客　いや、大分わかりました。もつこよく私も自分で考へさせて頂きませう。

主　これで幼稚園の必要の理由の全部を申上げたのではありませんよ。自分の子どもをもつて居るものは、場所の點からも、親の力の點からも、家庭だけでは、充分でないことを思ふものですね。

客　實際です。

主　實際の話です。そこで、いゝ幼稚園が、我子のために、ほしくなるのです。

客　どうも、大層長くお邪魔しました。今日は之れで御免蒙りませう。

主　さようですか。是非一度、幼稚園の實際を見においで下さい。

客　有り難う御座います。きつこ近日に伺ひます。では、さようなら。

主　さようなら。